

## 「忍冬唐草紋軒平瓦の研究」

西 川 雄 大

忍冬唐草紋平瓦は瓦当面の中心に宝珠形の飾りを置き、そこから左右に三葉の半パルメットを三単位反転させる。そして中心飾と半パルメットを繋ぎあわせる役割を果たすのが蔓草であり、それらを繋ぎとめる位置には結節が表現されている。きわめて流麗で雄勁な紋様をした軒平瓦である。

忍冬唐草紋軒平瓦の初源は法隆寺東院下層・若草伽藍の時期まで遡るが、標準型式としての「法隆寺式軒瓦」は西院伽藍創建時のものを指し、組合う複子葉八弁蓮華紋軒丸瓦とともに認識されている。

これまで「法隆寺式軒瓦」は西日本を中心に分布することが知られており、その分布意義に関しては『法隆寺伽藍縁起并流記資財帳』にみられる庄倉の位置とはほぼ対応関係にあることが指摘されている。

この解釈にもとづいて各地の軒瓦を散見してみると、広義での「法隆寺式軒瓦」の範疇ではあるが、西院伽藍以外の斑鳩地域周辺の寺院から伝播したと考えられるものが少なくないことに気が付く。

拙稿では各地に分布する忍冬唐草紋軒平瓦を集成し、その紋様表現や製作技法の相違から、西院伽藍あるいは斑鳩地域周辺の寺院との関連性を整理し、あらためて「法隆寺式軒瓦」と法隆寺の庄倉の関係を明らかにしようとした。

その際、紋様の類似性を、同じ型で作られたもの（同範）、同じ型で作られてはいないが、その紋様に酷似したもの（同紋）、同じ型で作られて

はないが、その紋様の系統を引くもの（同系）という三つの段階に設定した。

「法隆寺式軒瓦」の標準型式となる西院伽藍出土忍冬唐草紋軒平瓦（以下、法隆寺216Aとよぶ）の出現と時期をほぼ同じくして、斑鳩地域周辺の平隆寺・法輪寺・長林寺・山村廃寺でも同紋の忍冬唐草紋軒平瓦が確認できる。これらも法隆寺216Aと同様に、各地の出土例との比較対象とした。以下、その結果である。

#### ①法隆寺216A

堂ヶ芝廃寺（同範か？）、益須寺遺跡（同系）、新部大寺遺跡（同系）

#### ②法輪寺

高安寺跡（同範か？）、木之本廃寺（同範）、醍醐廃寺（同紋）

三松寺（同紋）、平松廃寺（同紋）、三田廃寺（同紋）、手原遺跡（同紋）

樋ノ口遺跡（同紋）、下五反田遺跡（同系）、比江廃寺（同系）

尾張元興寺跡（同系か？）

#### ③平隆寺

中ノ子廃寺（同範）、朝生田廃寺（同範）

#### ④長林寺

虚空蔵寺跡（同範か？）

各地に分布する忍冬唐草紋軒平瓦は「法隆寺式軒瓦」の標準型式となる法隆寺216Aが意外にも少なく、法輪寺と関連するものの方が多いことが看取できた。平隆寺、長林寺の例もあわせ、広義の「法隆寺式軒瓦」ではあるが、必ずしも法隆寺からの一元的な展開ではなく、斑鳩地域周辺寺院との関連のもとで展開したものといえる。

つづいて、同紋・同系の資料の関連性に客観性をもたらすための作業として、忍冬唐草紋の紋様を構成している中心飾と各結節をX軸とY軸の座

標値に置き換え、瓦範というキャンバスのなかに描かれる紋様の割り付け状況を数値に表してみた。

とくに効果があったのは、法隆寺216Aと山村廃寺の比較で、山村廃寺の忍冬唐草紋軒平瓦は法隆寺216Aの瓦範を下絵にし、転写して製作されたものであるということがより確実なものとなった。

今回は「法隆寺式軒瓦」のなかでも忍冬唐草紋軒平瓦からの検討を中心に行なった。その結果、法隆寺の庄倉との対応関係にある地域の中には斑鳩地域周辺の他の寺院の影響を受けた軒瓦が展開していることが指摘できた。このことは「法隆寺式軒瓦」イコール法隆寺の庄倉という考え方を難しくする結果となった。

一方で、対応関係にない地域に関しては軒平瓦だけでなく軒丸瓦も含めた検討が必要である。また「法隆寺式軒瓦」と他の型式の軒瓦の組合せにも注目しなければならない。